

安寧の都市

医学・工学からのアプローチ

Liveable Cities

京都大学大学院工学研究科・医学研究科
安寧の都市ユニット

安寧の都市

医学・工学からのアプローチ

Liveable Cities

京都大学大学院工学研究科・医学研究科
安寧の都市ユニット

安寧の都市

医学・工学からのアプローチ

Liveable Cities

もくじ

巻頭言 人口減少・超高齢化に立ち向かう小さな美しい村 …………… 谷口栄一 4

第1章 「安寧の都市」とはなにか

安寧の都市ユニットの歩み ……………	谷口栄一	11
鼎談1 医学と工学との融合を再考する ……………	谷口栄一+二木淑子+坪山直生	16
鼎談2 安寧の都市と医・工連携の可能性 ……………	土井 勉+精山明敏+藤井 聡	29
鼎談3 安寧の都市ユニットの理念と構想と実際 ……	野本慎一+川崎雅史+清野純史	46
ユニットの教育の特徴とその成果 ……………	小山真紀	58

第2章 研究と実践から導かれる「安寧の都市」論

安寧の都市論——公民連携によるガバナンス ……………	谷口栄一	67
ICTを活用した在宅医療・介護情報共有システム——電子連絡ノートの有用性 ……………	野本慎一	76
安寧の都市をデザインする——地域コミュニティ再生の実践を通して ……	土井 勉	85
運動機能からみた街づくり ……………	坪山直生	91
感性と風景——「感性都市工学」への挑戦 ……………	精山明敏+山田圭二郎	96
医工連携の難しさと楽しみ ……………	二木淑子+小山真紀	102
「安寧の都市」の景観研究への試み ……………	川崎雅史+山田圭二郎	108
「安寧の都市」教育ユニットと京都大学の世界展開力強化事業 ……	小山真紀+清野純史	115
「安寧あるまち」をつくるために必要なこと ……………	藤井 聡	121
コミュニケーションと安寧の都市 ……………	安東直紀	127
東日本大震災より3年——これからの災害医療への提言 ……………	三谷智子+小池 薫	133
一医学研究者の感性メカニズムへの挑戦——新たな都市アメニティ創造は可能か？ ……………	今村行雄	138

個別化先制医療への挑戦	村上由希	146
Multi-agent Modelling of Freight Policies under Network Uncertainty	Joel Sze Ern Teo	152
Estimate Freight Flows with Secondary Data: A Study in Belo Horizonte City, Brazil	Lilian dos Santos Fontes Bracarense, Leise Kelli de Oliveira, Frederico Ferreira Pedroso	157
日本における地域協働による安全なまちづくり——「セーフコミュニティ」研究の可能性	白石陽子	161
初めての研究論文作成——私の実践プロジェクト「大規模災害時における行政職員の派遣に伴うストレス軽減について」	濱田雄一郎	168
クライシス・マネジメントと都市アメニティの融合——実践プロジェクトとその後の活動	谷口幸治	174
15年後の都市交通はどうなるのだろうか?	五十嵐敏郎	178
少子高齢化と現代の妊娠出産を取り巻く現状について	北岡 愛	184
集落の消滅過程——多賀町保月集落の事例から	藤尾 潔	192

第3章 履修生のまなざし

広い視野と人脈を得た1年間	上門 充	200
安寧の都市クリエイターを志す社会人として	瀧口康司	200
平時の地域力を有事につなげられる地域へ	樋口博紀	201
自分にとっての安寧の都市について	板倉聖起	202
安寧の都市ユニットという学び	小菅謙次	202
これからの安寧の川づくりにむけて	佐々木礼子	203
大学と企業の橋渡し役	前田 修	204
安寧会の活動と今後	古橋勝也	205

第4章 記録と資料

安寧の都市クリエイター 一覧		210
履修生「実践プロジェクト」題目一覧 (第一期生～第四期生)		212
履修生「実践プロジェクト」対外発表・学術論文実績		214
安寧の都市ユニットシンポジウム、安寧の都市セミナー 実績		216
『安寧の都市研究』(Journal of Liveable City Studies)バックナンバーの掲載内容		219
安寧の都市ユニット関係教員・研究員リスト		221
安寧の都市、次のステージへ——あとがきにかえて	土井 勉	222

1章

「安寧の都市」とはなにか

工学研究科・医学研究科が共同で設立した「安寧の都市ユニット」は、関係する研究科長や専攻長をはじめとする学内教員の尽力により、2010年4月に設立をみた。そこにいたるまでには、医工の学内教員のあいだで、数年間にわたる幾度もの議論が積み上げられてきた。そして、健康医学と都市系工学を融合した新しい学問領域「人間健康都市科学」の創成、徹底した問題発見型の「臨地教育」とプロジェクト提案型の「デザイン教育」をつうじた人材育成、地域連携などを柱とするユニットの教育理念と目標、育成すべき人材像とそれに応じたカリキュラムなどが練り上げられ、実現されたのである。

これまでほとんど接点をもたなかった医学(健康医学)と工学(都市系工学)の連携・融合という、京都大学における全国的にも希有な試みは、この5年間でなにをもたらしただのか。

第1章では、ユニット設立以前の議論や当初の理念・目標等を踏まえつつ、この5年間の歩みをふりかえり、改めて「安寧の都市」とはなにかを考える。鼎談では、ユニットの設立とその後の研究・教育プログラムの運営に中心的に携わってきた、正副ユニット長および学内教員9名が、ユニット運営をつうじて得たあらたな発見や成果、反省点や今後の展望などを、医工の教員を交えた3人ずつの鼎談形式で、自由に語り合った。

2章

研究と実践から導かれる
「安寧の都市」論

第2章「研究と実践から導かれる『安寧の都市』論」では、ユニットに携わった教員・研究員・履修生が「安寧の都市」の実現に向けたビジョンや取り組んできた研究・実践の成果を報告する。

安寧の都市ユニットの設立からこの5年間、その教育・研究・実践に携わってきた教員・研究員は、それぞれの専門分野の、あるいは医工連携・融合型の研究や実践をつうじて、また履修生は実践プロジェクトにおける研究やその後の実践をつうじて、「安寧の都市」の構築にかかわる理論や方法論を深めてきた。

その切り口は、ユニットにかかわった研究者や履修生の数だけ多様性に富んでいる。たとえば、「人」の心身の健康(認知・運動機能、災害時ストレス、感性等)、それを支える強靱な「社会」のあり方とそのシステム(先制医療、災害医療、在宅医療・介護、出産環境、都市交通・物流、人道援助ロジスティクス、コミュニティ、ガバナンス等)、それらの基盤となる「環境」の保全・創造のあり方(地震防災、都市アメニティ、景観等)などである。

これらは、直接的な医工連携・融合のかたちを必ずしもとっていない。しかし、これらが相互に密接に関連しつつ、その先につうずる「安寧」なまちづくりへの萌芽を、読者に感じとってもらうことができれば幸いである。

3章

履修生の
まなざし

4章

記録と資料

『安寧の都市——医学・工学からのアプローチ』

発行日 2015年1月24日

発行 京都大学大学院工学研究科・医学研究科
安寧の都市ユニット
〒615-8540 京都市西京区京都大学桂C1
TEL:075-383-2819 FAX: 075-383-2820

発行人 谷口 栄一
(安寧の都市ユニット ユニット長／京都大学大学院工学研究科 教授)

編集協力 京都通信社

ISBN 978-4-9908156-0-8

